

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年5月2日

予報期間：5月4日～6月3日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

東日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる所がある見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

- 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

# 全般1か月予報

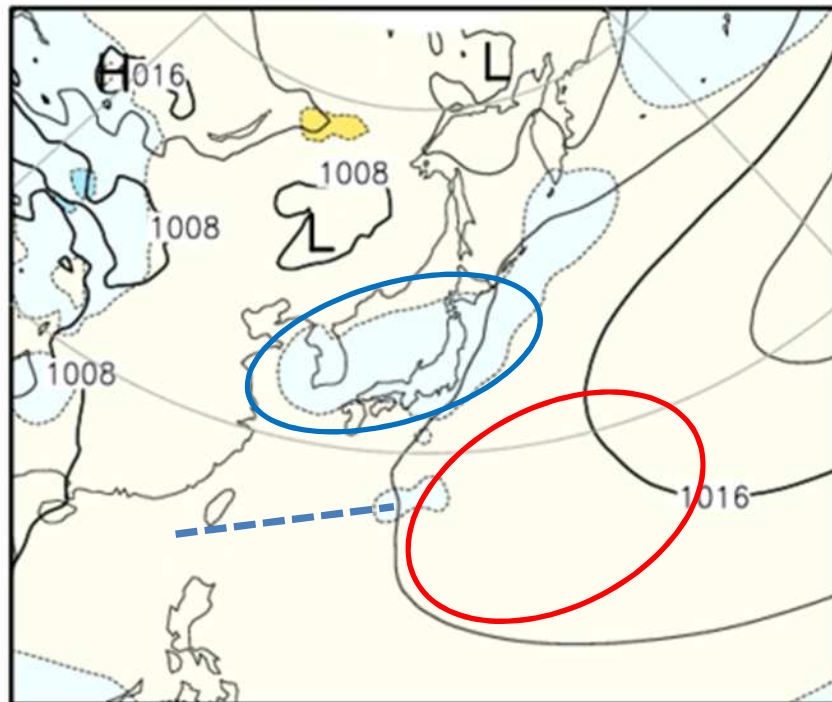
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:30:30	
	太平洋側		20:40:40	40:30:30	
東日本	日本海側	10:30:60	20:40:40	40:30:30	
	太平洋側		30:30:40	40:30:30	
西日本	日本海側	10:30:60	30:40:30	40:30:30	
	太平洋側		30:40:30	40:30:30	
沖縄・奄美		10:30:60	20:40:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:50:30	20:40:40	20:40:40
東日本	10:40:50	10:40:50	20:40:40
西日本	20:40:40	10:40:50	20:40:40
沖縄・奄美	10:40:50	20:40:40	20:30:50

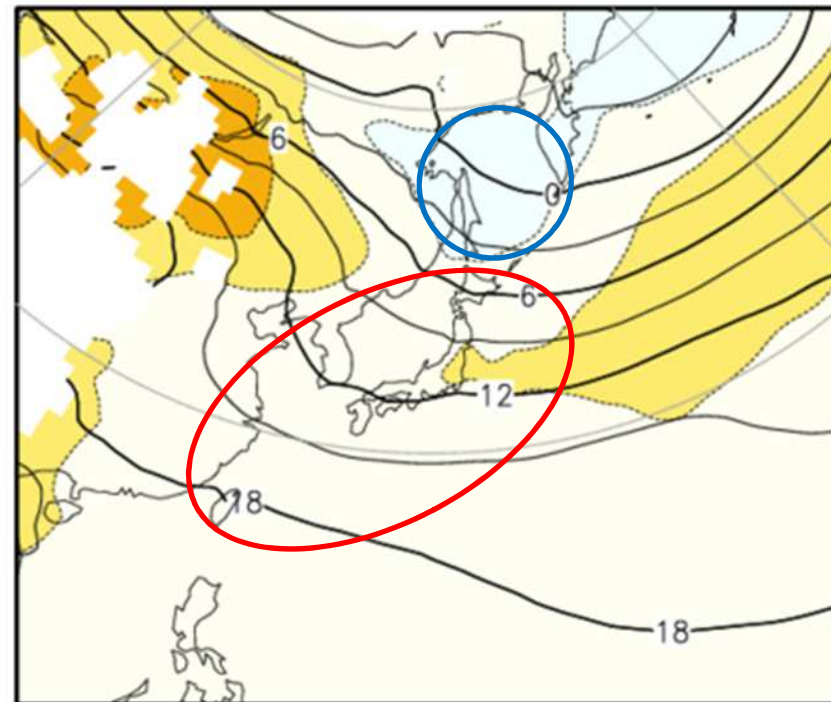
## 全般予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は東・西日本と沖縄・奄美で高く、北日本で平年並か高いでしょう。特に、東日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる所がある見込みです。
- 北日本と東日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

## 地上気圧(1か月)

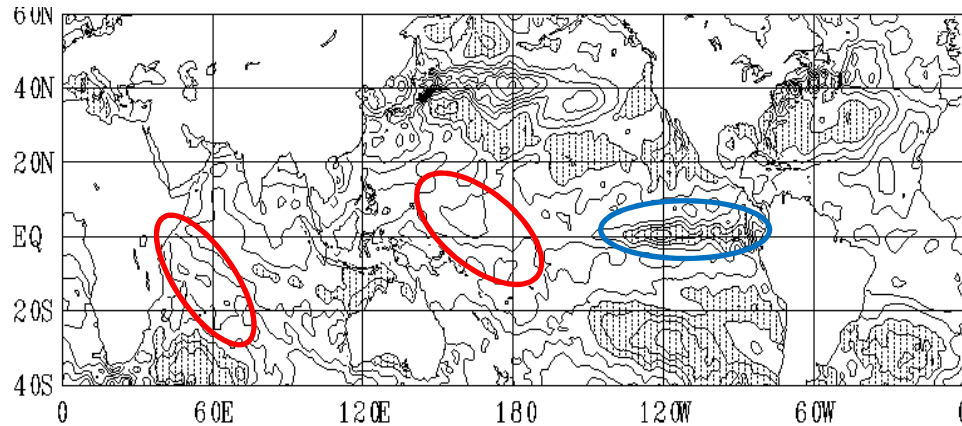


## 上空約1500mの気温(1か月)



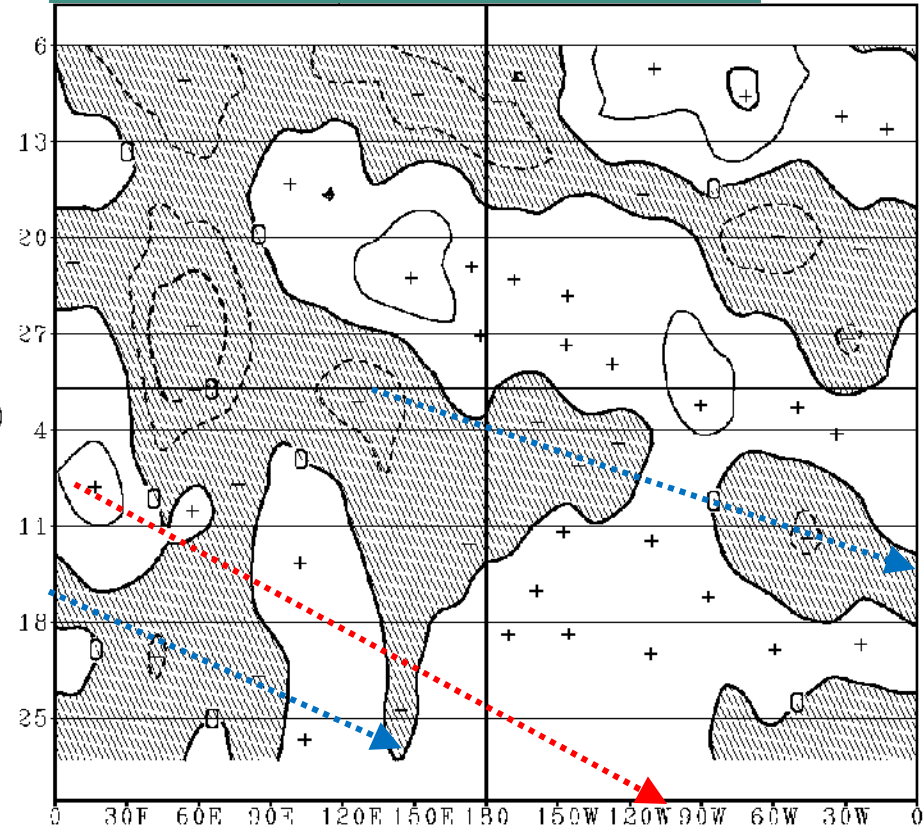
1か月平均の地上気圧(左図)は、北・東・西日本は平年より低く、中国東北区には低気圧があり、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受ける時期がある見込みです。また、日本の南に高気圧が張り出し、沖縄・奄美を中心に前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受ける時期がある見込みです。  
 上空約1500mの気温(右図)は、日本付近では平年より高いですが、オホーツク海付近は平年より低いでしょう。

## SST偏差



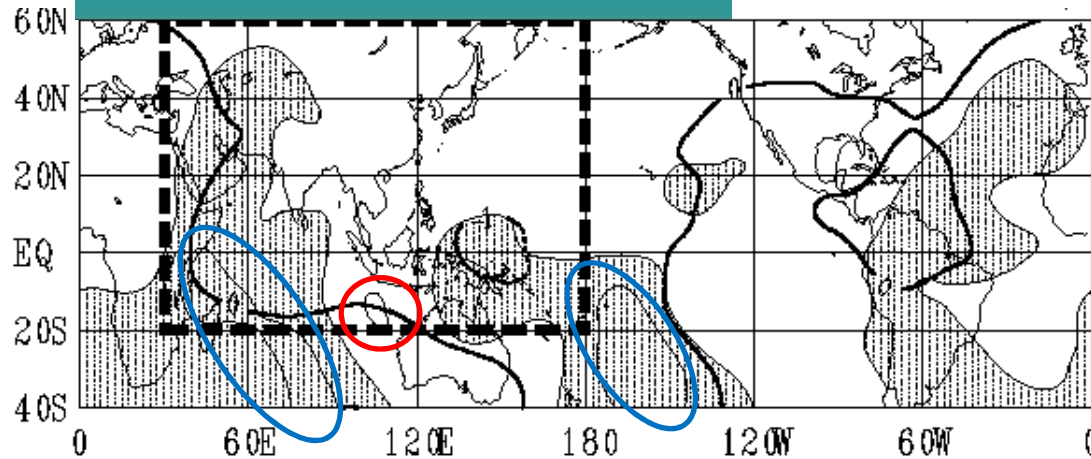
太平洋赤道域は日付変更線の西を中心に正偏差だが、東部には負偏差も見られる。  
インド洋熱帯域は西部を中心に正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



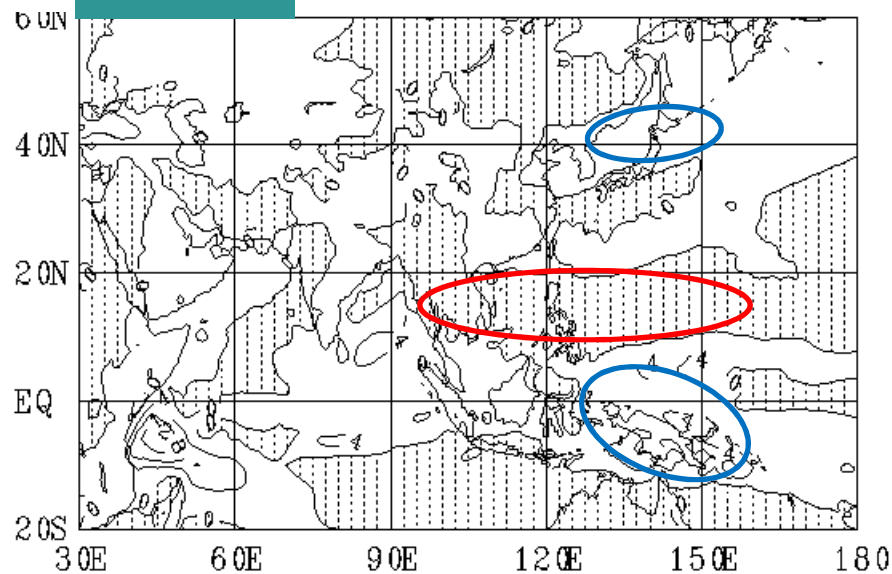
MJOの対流活発域は太平洋西部から東進し、3~4週目はインド洋西部で対流活発となる。

## 200hPa速度ポテンシャル



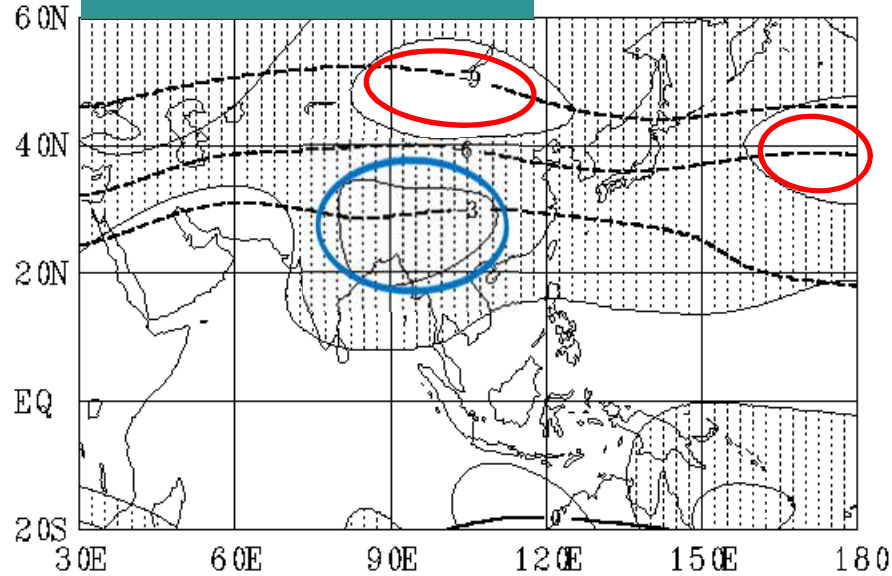
赤道域ではインド洋西部と日付変更線の東で上層発散偏差、インド洋東部で上層収束偏差だが、いずれも南半球中心。

## 降水量



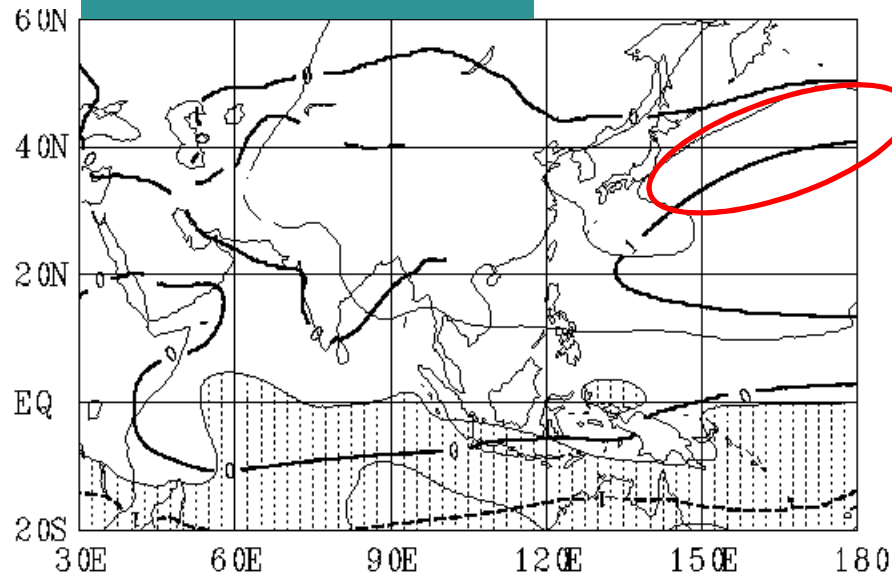
ニューギニア付近で多雨偏差、インドシナ半島からフィリピンの東にかけて少雨偏差。北日本で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



チベット付近を中心に低気圧性循環偏差。バイカル湖付近と日付変更線付近は高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数

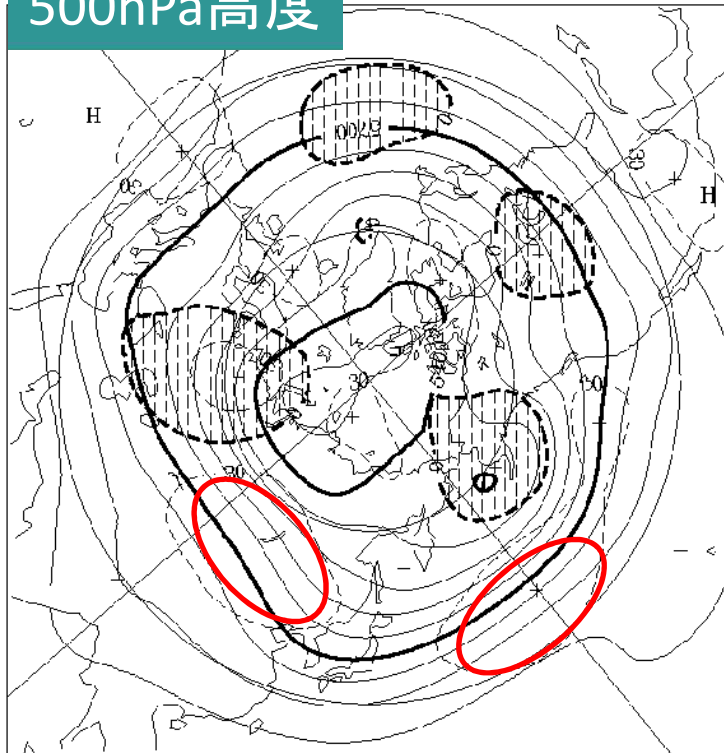


日本の東は高気圧性循環偏差。



# 予報資料の解釈 1か月(5/4~5/31)

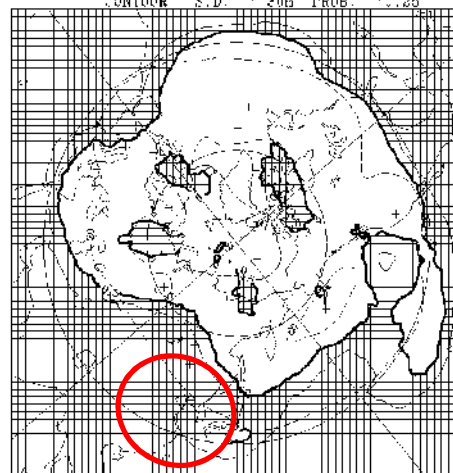
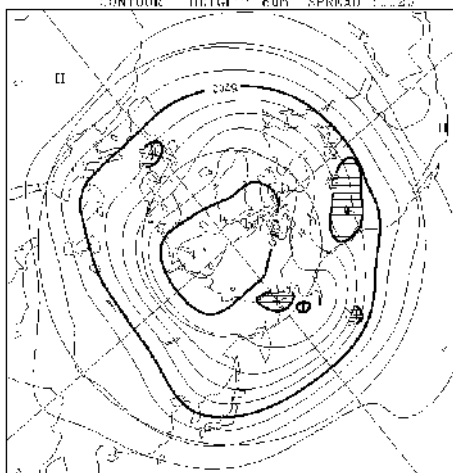
## 500hPa高度



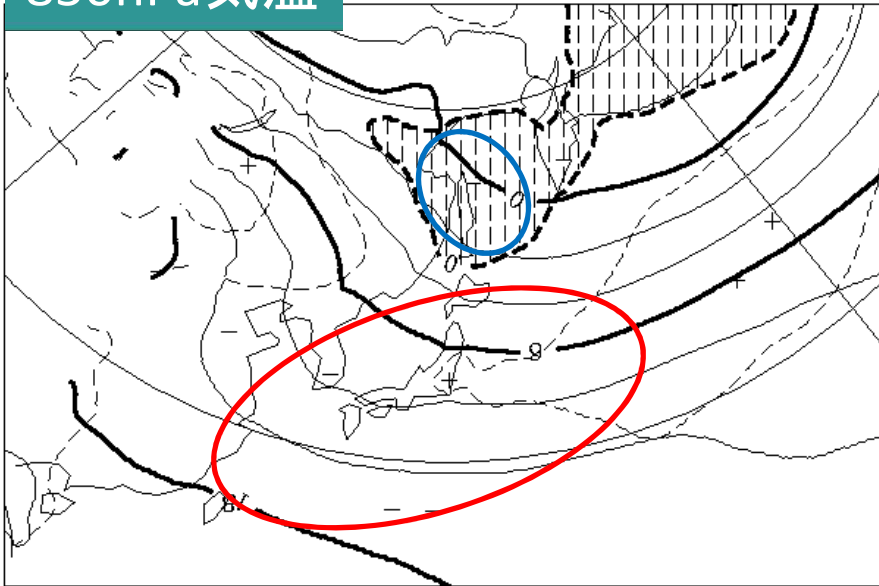
バイカル湖付近と日付変更線付近を中心に正偏差。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF HEIGHT ANOMALY AND S.D.

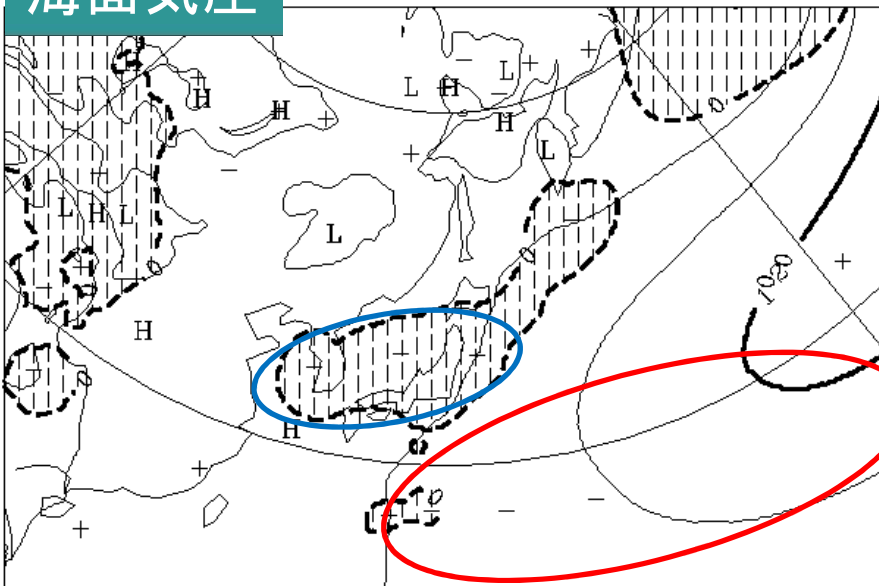


## 850hPa気温



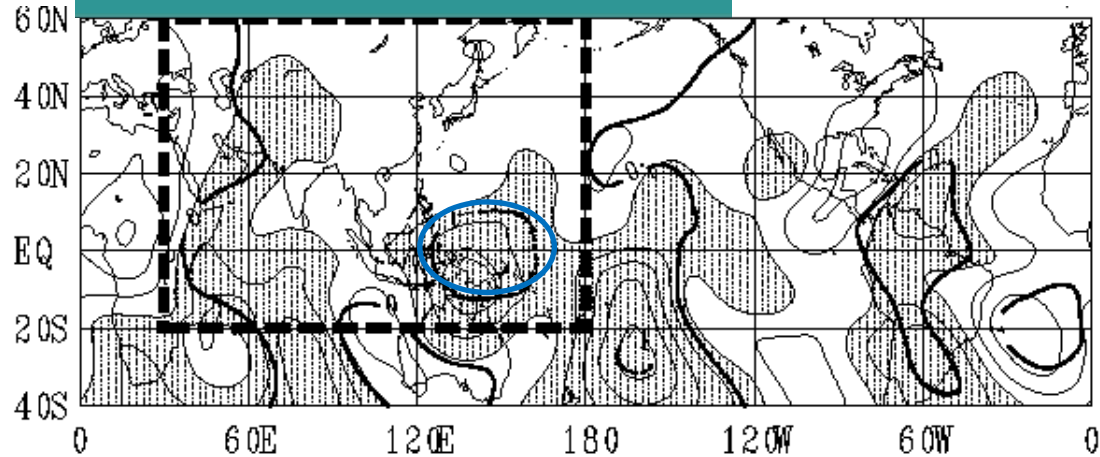
日本付近では平年より高いが、オホーツク海付近は平年より低い。

## 海面気圧



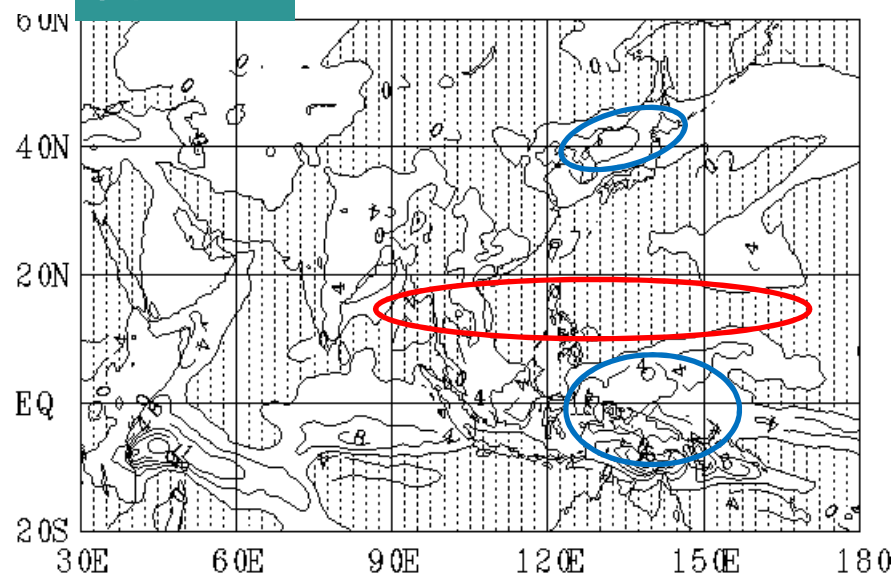
北・東・西日本は平年より低く、中国東北区には低気圧があり、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受ける時期がある見込み。また、日本の南に高気圧が張り出し、沖縄・奄美を中心に前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受ける時期がある見込み。

## 200hPa速度ポテンシャル



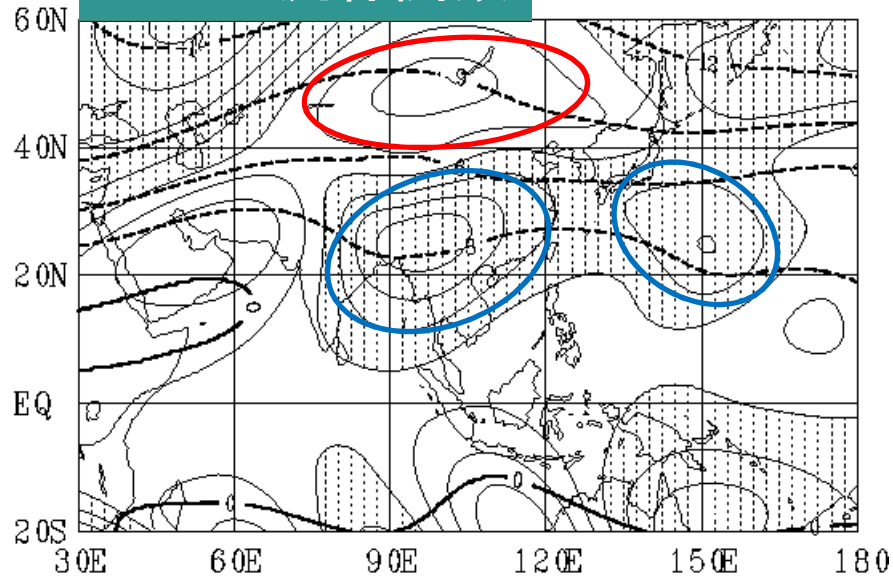
ニューギニア付近で上層発散偏差。

## 降水量



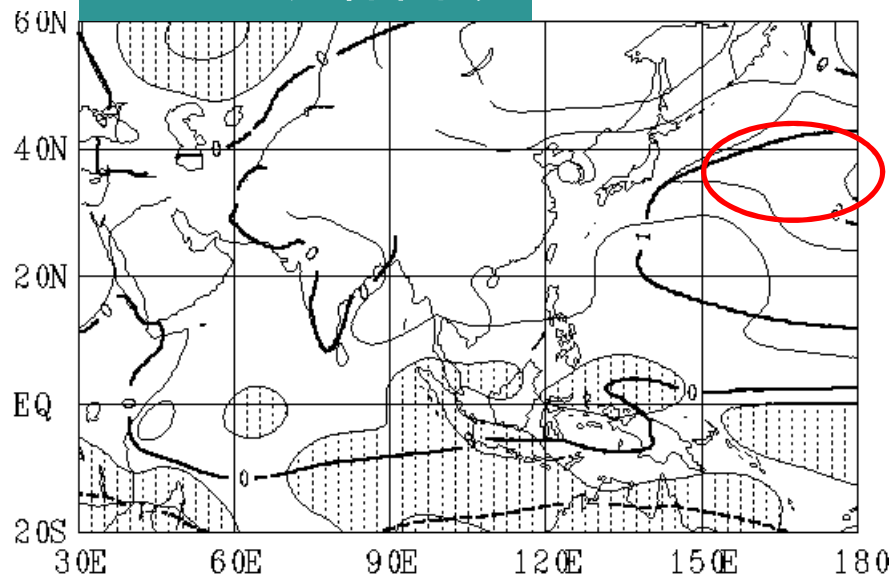
ニューギニア付近で多雨偏差。  
インドシナ半島からフィリピンの東にかけて少雨偏差。北日本は多雨偏差。

## 200hPa流線関数



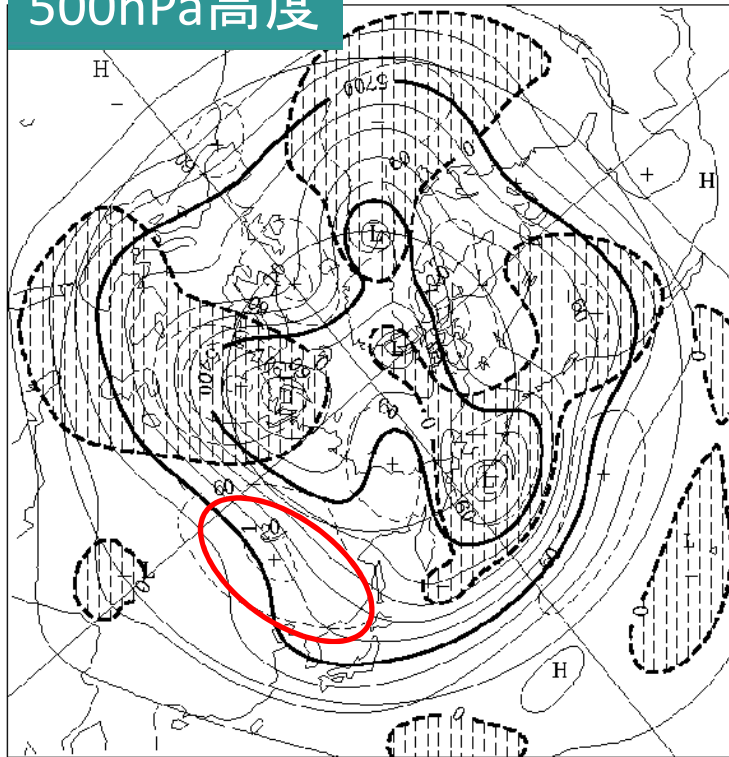
インドシナ半島の北と日本の南東海上を中心に低気圧性循環偏差。バイカル湖付近は高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数

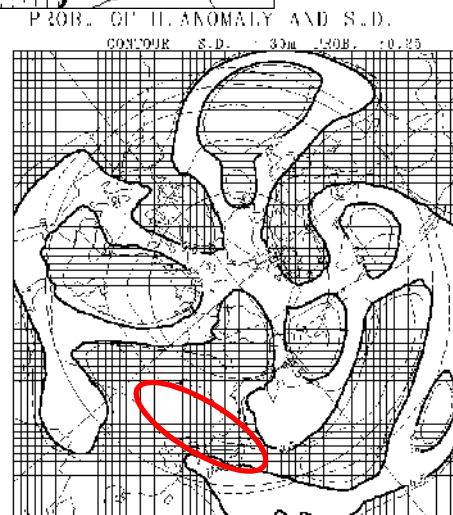
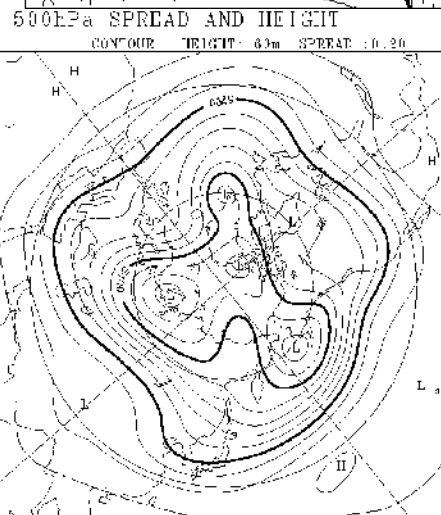


日本の東は高気圧性循環偏差。

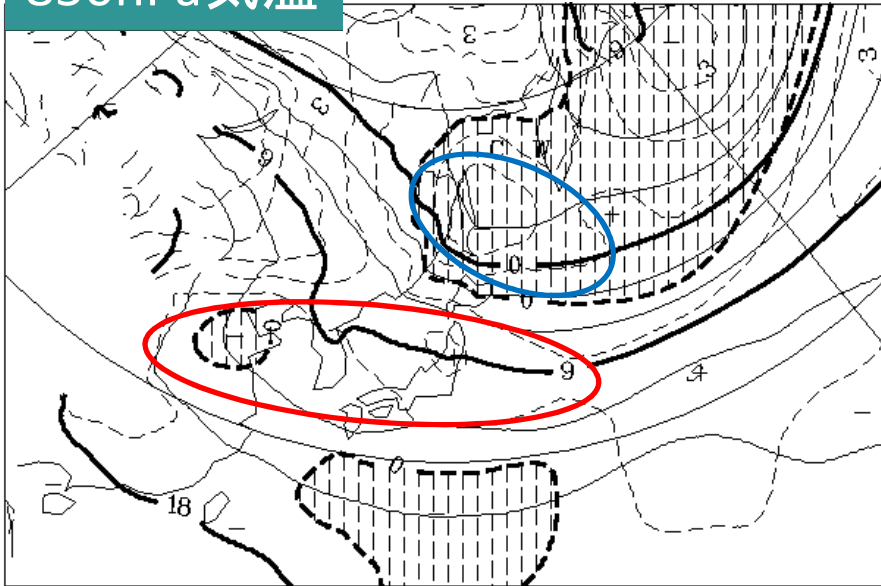
## 500hPa高度



バイカル湖付近を中心に正偏差。日本付近は西谷。

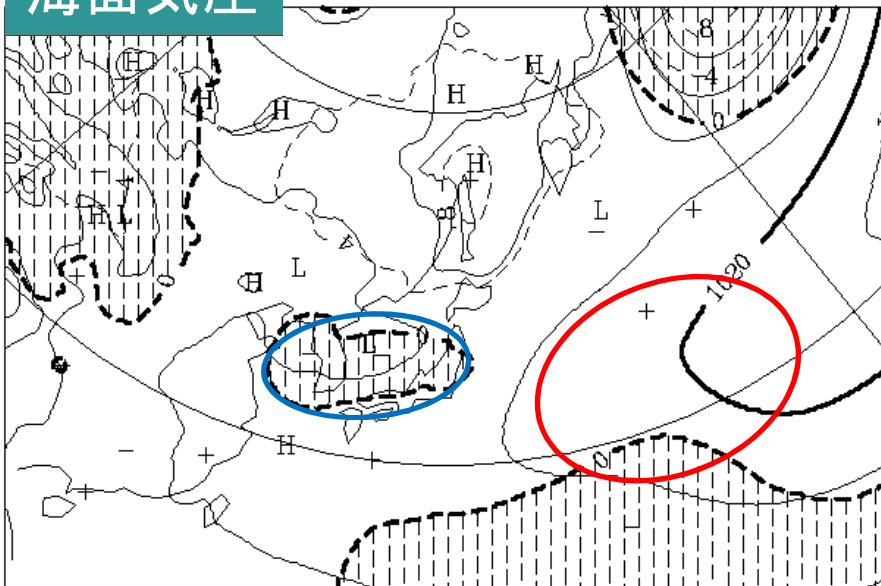


## 850hPa気温



東日本を中心に高温偏差に覆われるが、北日本には低温偏差のかかる所もある。

## 海面気圧



本州付近は負偏差で、日本の東の高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。

## 想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

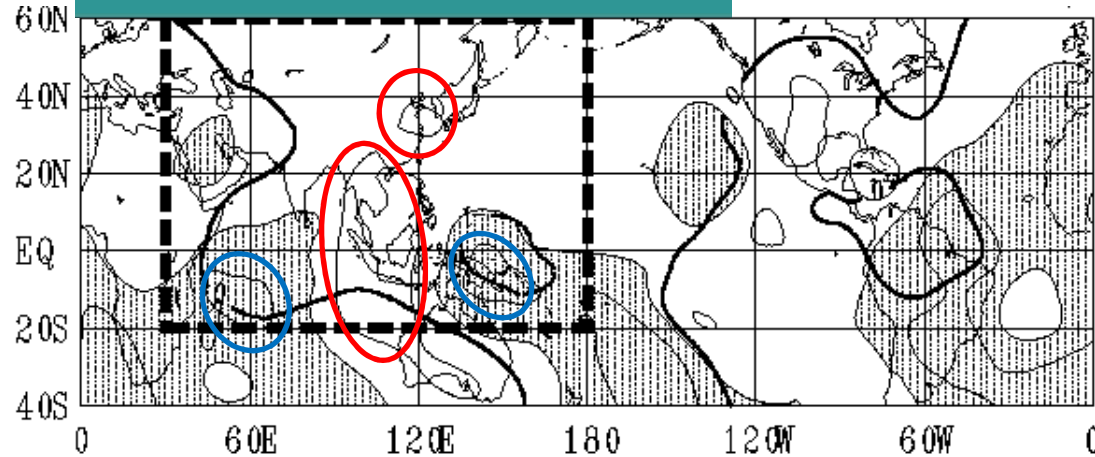
### <気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、東日本と沖縄・奄美で高温、西日本で高温傾向、北日本で平年並。東日本では、気温がかなり高くなる所がある見込み。

### <天候>

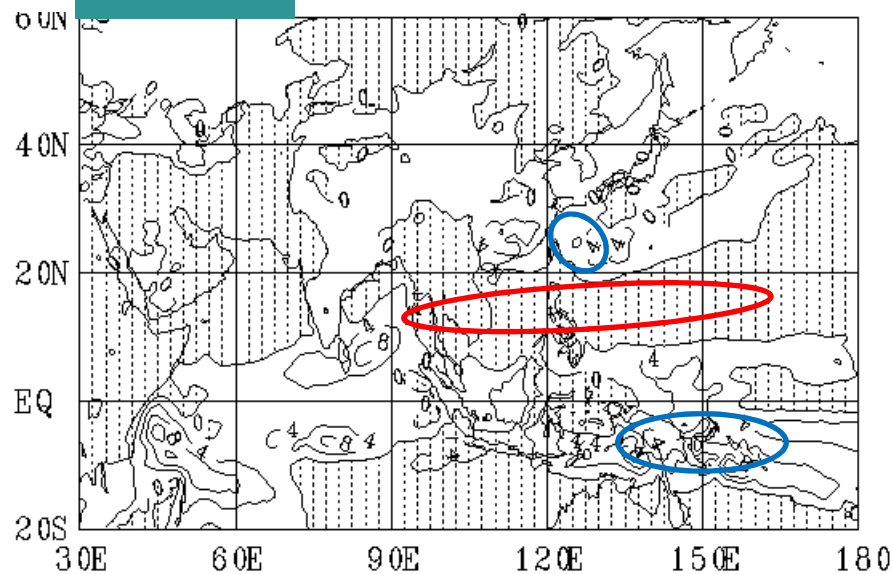
6日から8日にかけて、前線を伴った低気圧が日本海から北日本を進むため、北日本と東日本日本海側で多雨寡照、東日本太平洋側でやや多雨で寡照、西日本で並雨寡照。沖縄・奄美は並雨並照。

## 200hPa速度ポテンシャル



インド洋西部とニューギニア  
付近で上層発散偏差、インド  
洋東部から華中にかけて上  
層収束偏差。

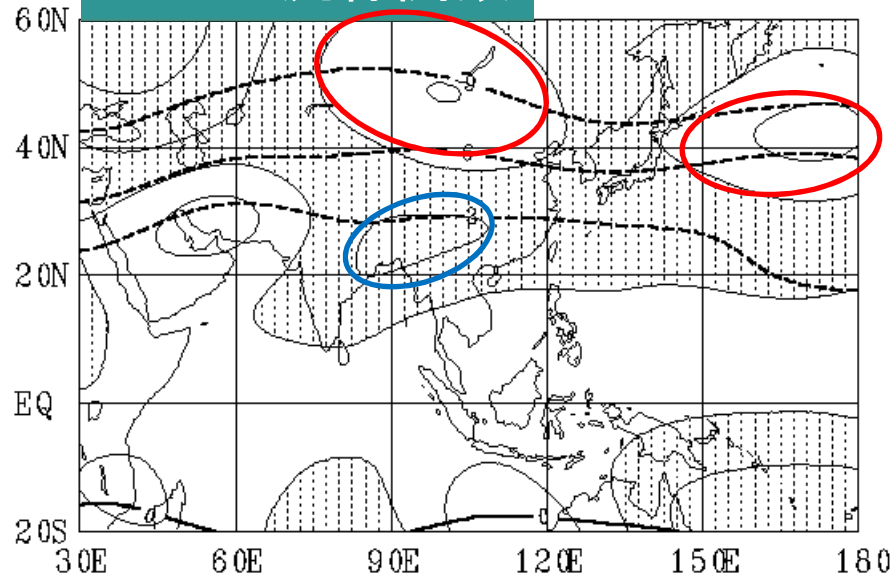
## 降水量



ニューギニアの東で多雨偏差。  
インドシナ半島からフィリピンの  
東にかけて少雨偏差。沖縄・奄  
美から日本の南にかけては多  
雨偏差。

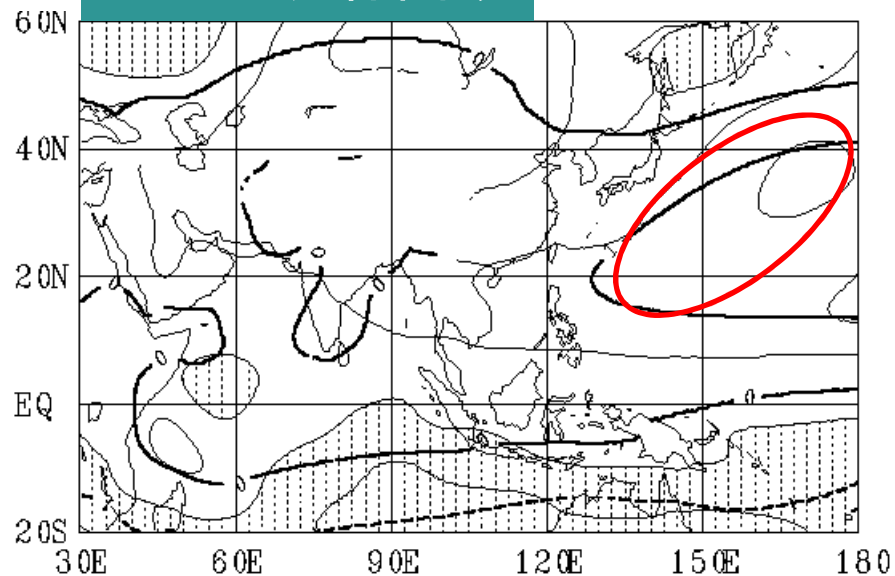


## 200hPa流線関数



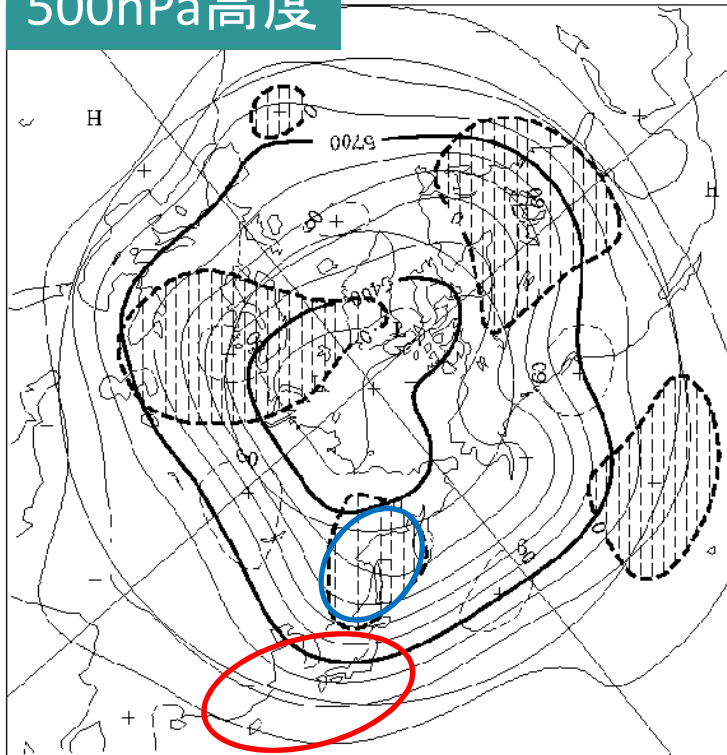
チベット付近を中心に低気圧性循環偏差。バイカル湖付近と日本の東は高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



日本の南東は高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度



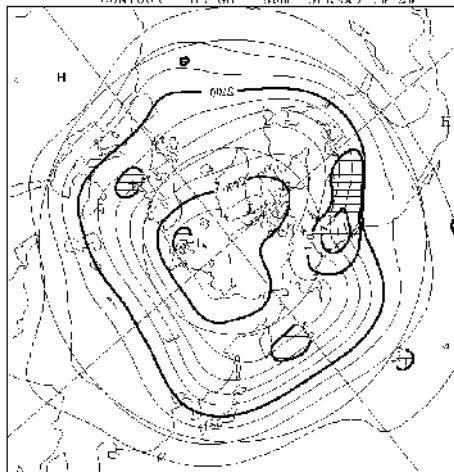
日本付近はトラフとなり、北日本には負偏差がかかる。東日本以西は正偏差。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

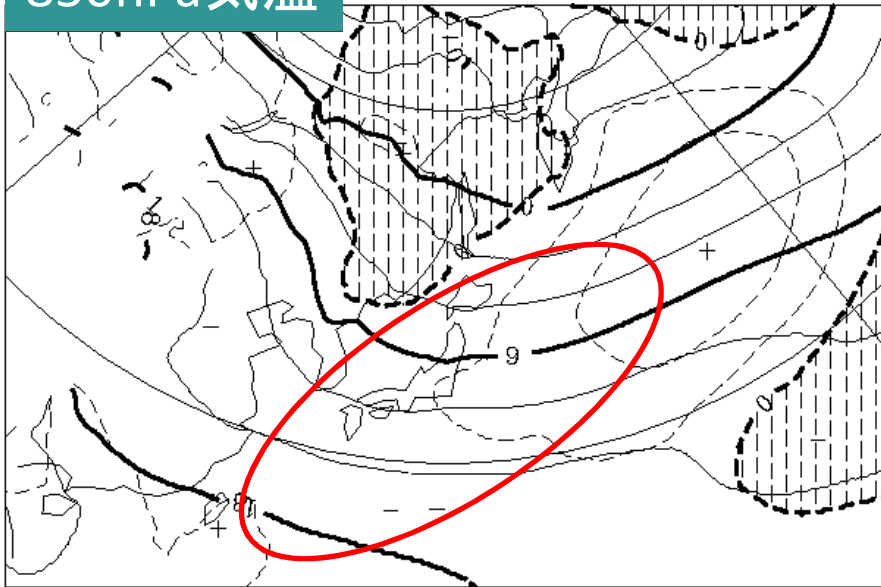
PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 30m 2203 0.25

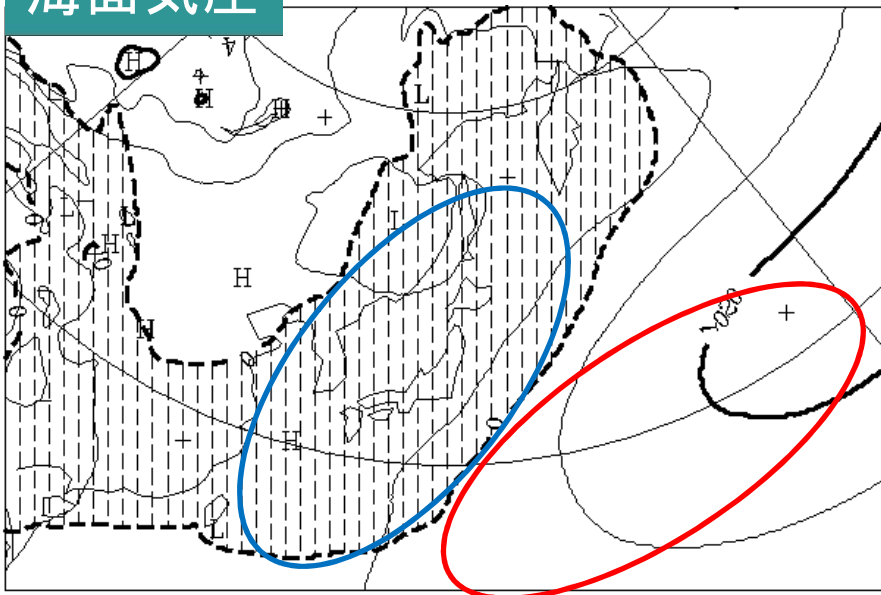


## 850hPa気温



日本付近は高温偏差に覆われる。

## 海面気圧



日本付近の等圧線の間隔が広く、天気は数日の周期で変わる見込みだが、中国東北区には低気圧があり、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受ける時期がある。日本の南東に高気圧が張り出し、沖縄・奄美では前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。

### 想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

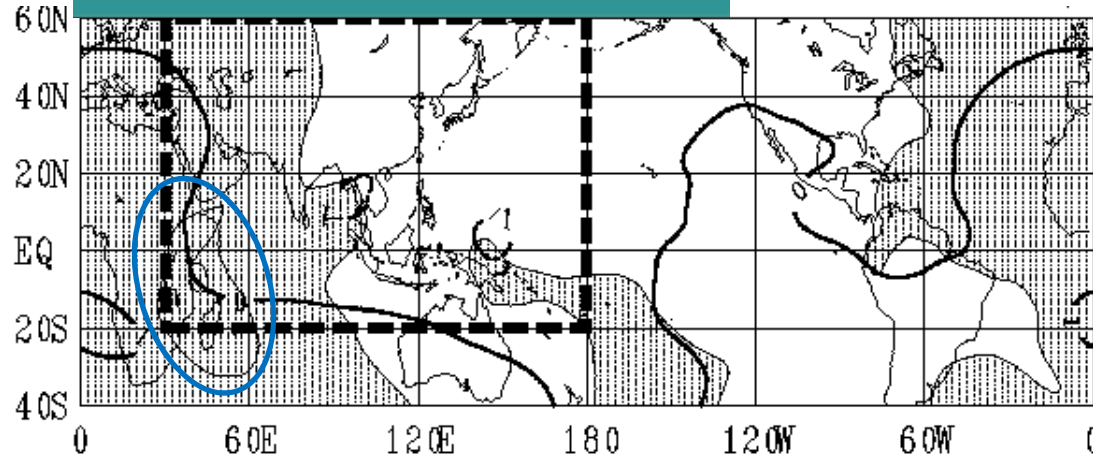
#### <気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、東・西日本で高温、北日本と沖縄・奄美で高温傾向。

#### <天候>

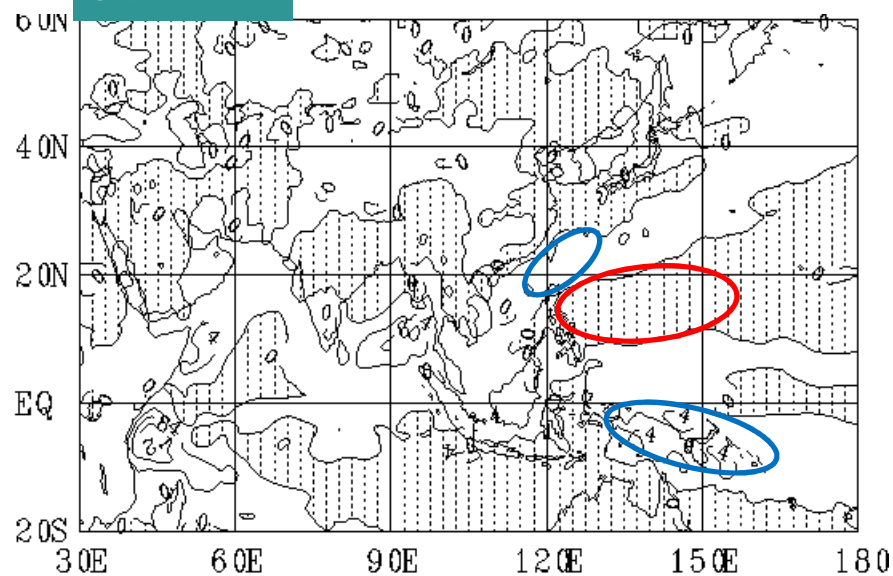
北日本を中心に低気圧や前線の影響を受ける時期があるため、北日本と東日本日本海側でやや多雨で並照、東日本太平洋側と西日本で並雨並照。沖縄・奄美は前線や湿った空気の影響を受けやすく、多雨寡照。

## 200hPa速度ポテンシャル



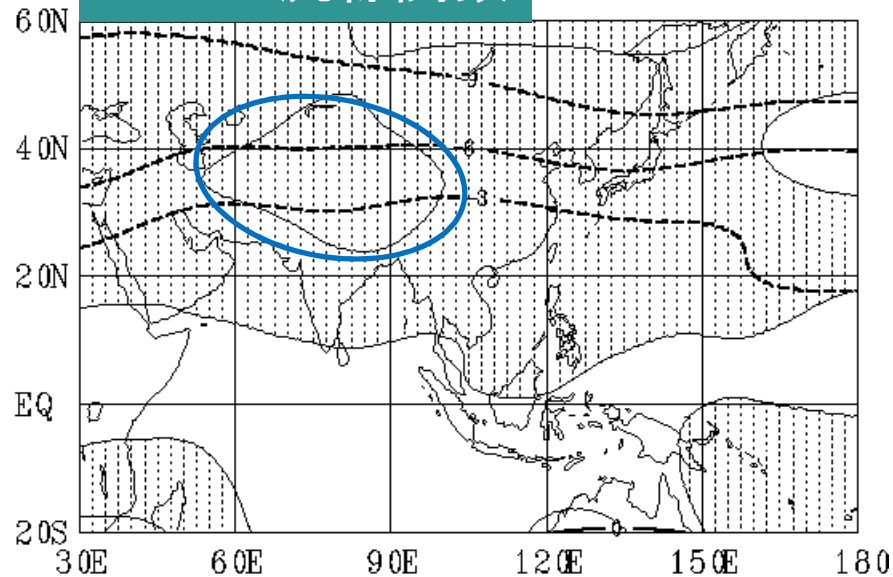
インド洋西部を中心に上層発散偏差

## 降水量



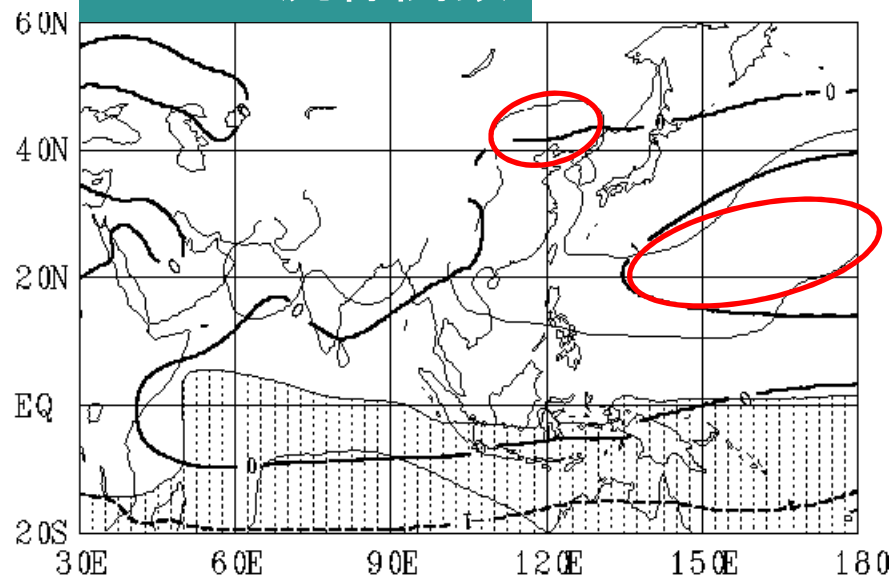
ニューギニアの東で多雨偏差。  
フィリピンの東で少雨偏差。台湾付近で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



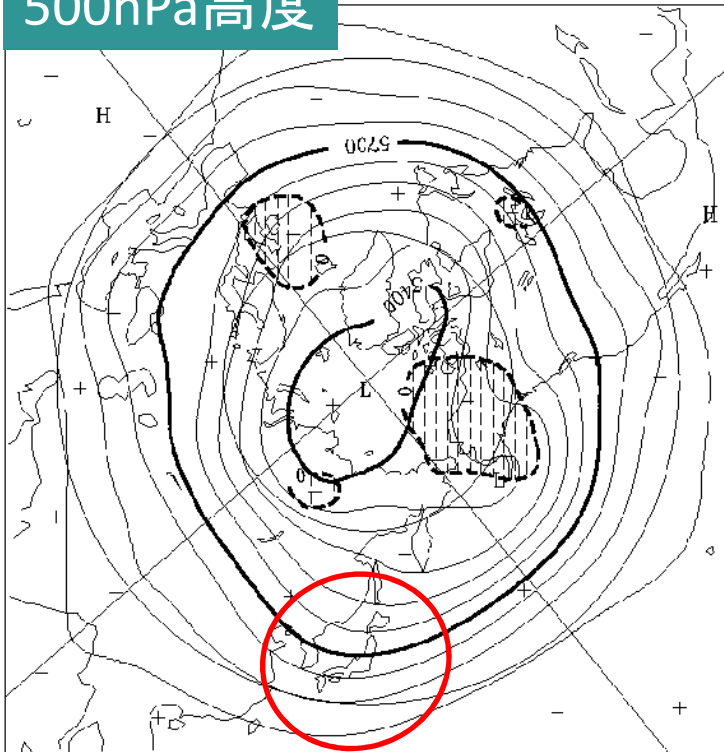
インドの北を中心に広く低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



日本の南とボツ海付近は高気圧性循環偏差。

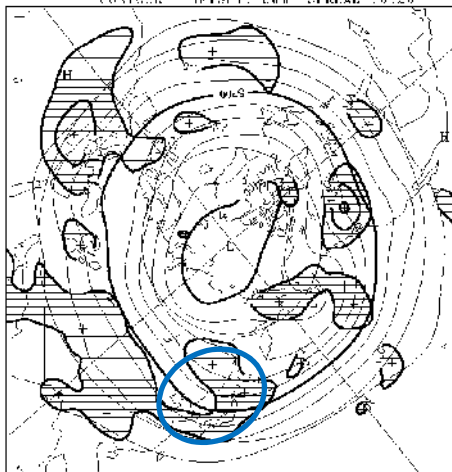
## 500hPa高度



日本付近は正偏差に覆われるが、北・東・西日本にはスプレッドの大きな領域が広がり、予測の不確実性が大きい。

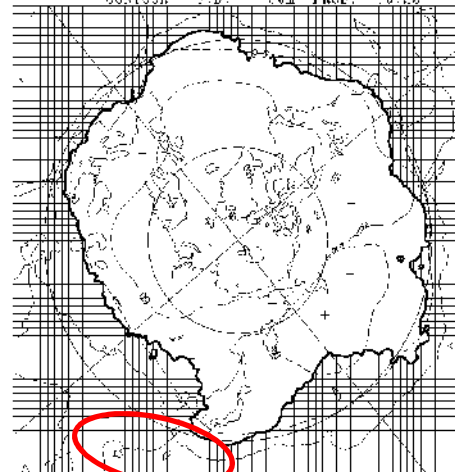
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

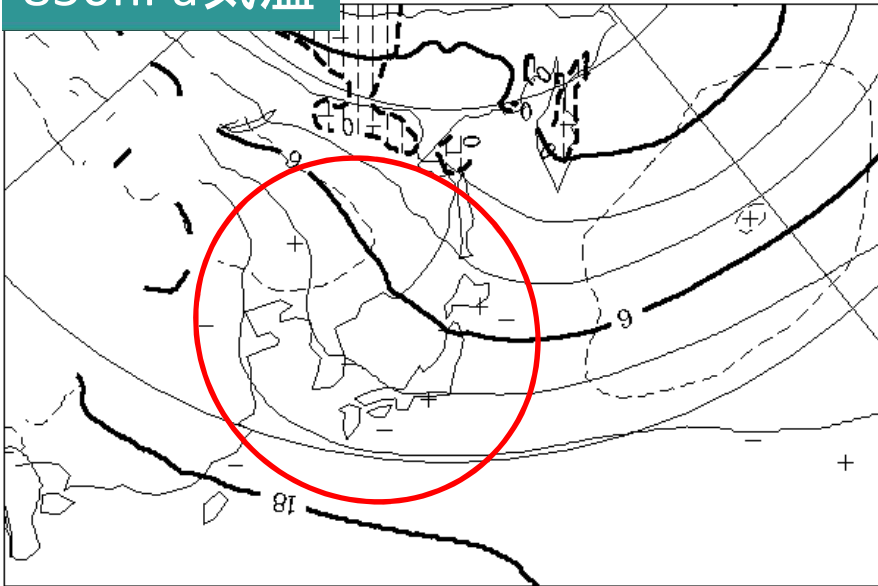


PROB. OF 1-ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

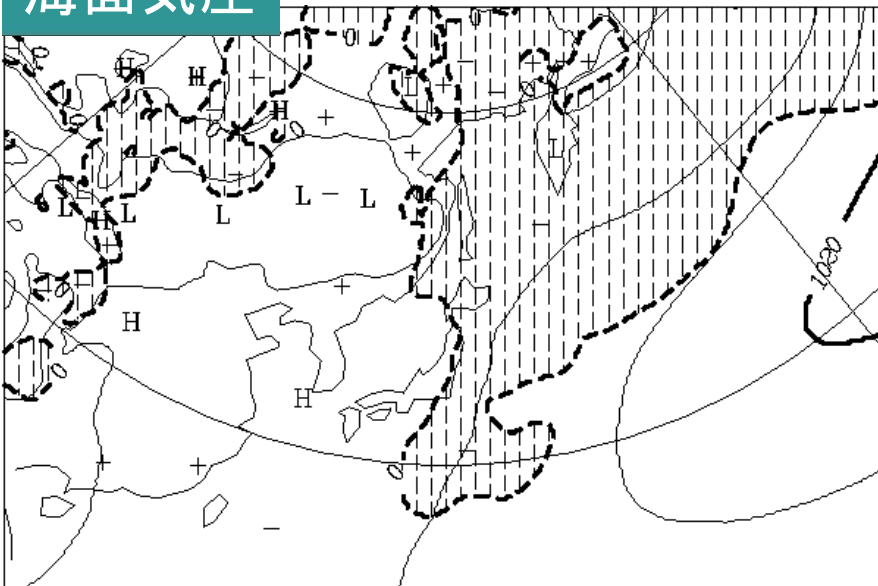


## 850hPa気温



日本付近は高温偏差に覆われるが、北・東・西日本はスプレッドが大きいことからやや割り引いて考える。

## 海面気圧



日本付近の等圧線の間隔が広く、天気は数日の周期で変わる見込み。



## 想定される天候

- 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

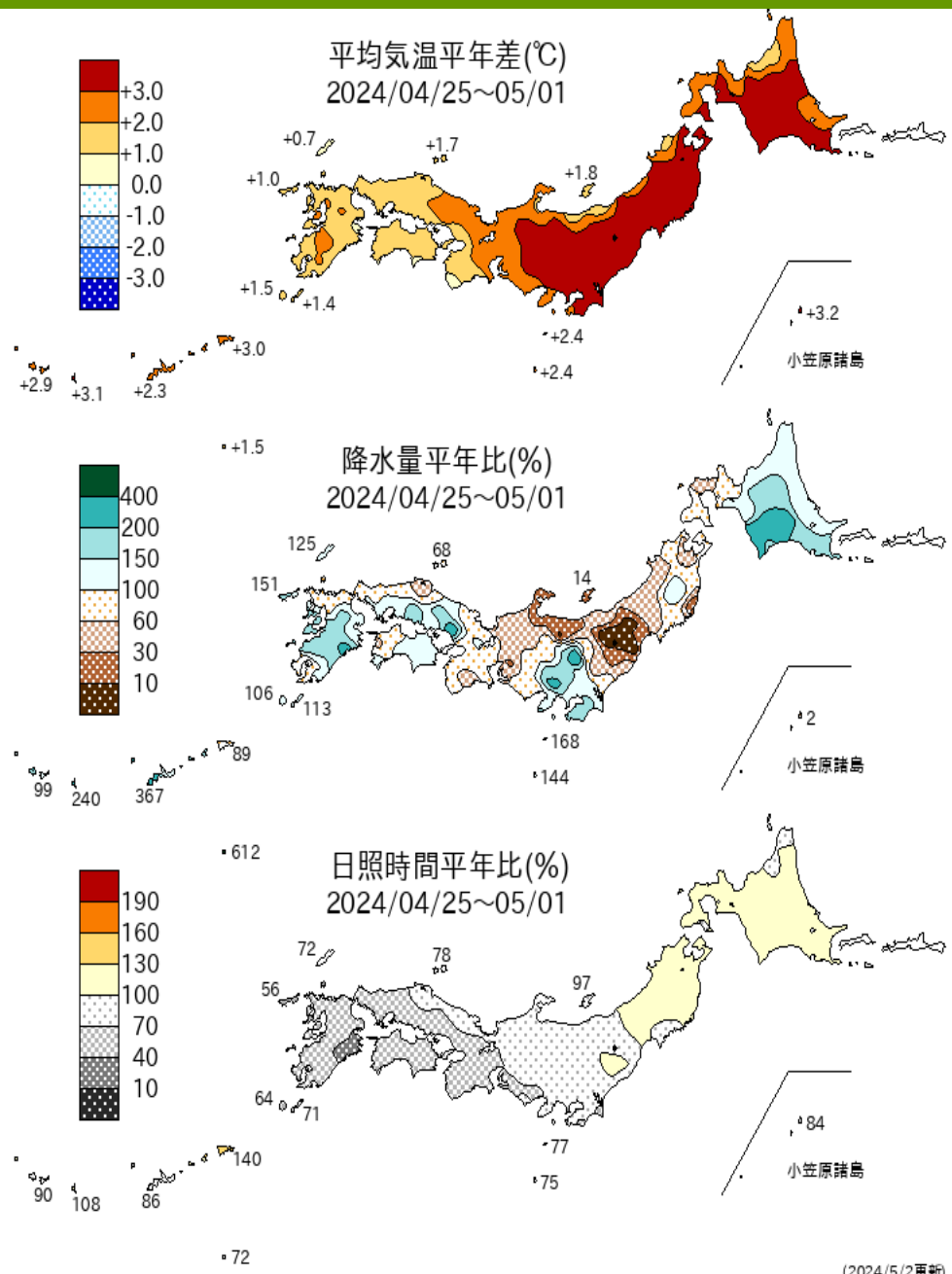
### <気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、北・東・西日本で高温傾向。沖縄・奄美で高温。

### <天候>

北・東・西日本で並雨並照を見込む。沖縄・奄美は前線や湿った空気の影響で、やや多雨で並照を見込む。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(4月25日~5月1日)は、東・西日本や沖縄・奄美では低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。一方、北日本では高気圧に覆われて晴れた日もありました。

気温は、暖かい空気が流れ込みやすかったため全国的に高く、記録的な高温を観測した地点もありました。

(2024/5/2更新)